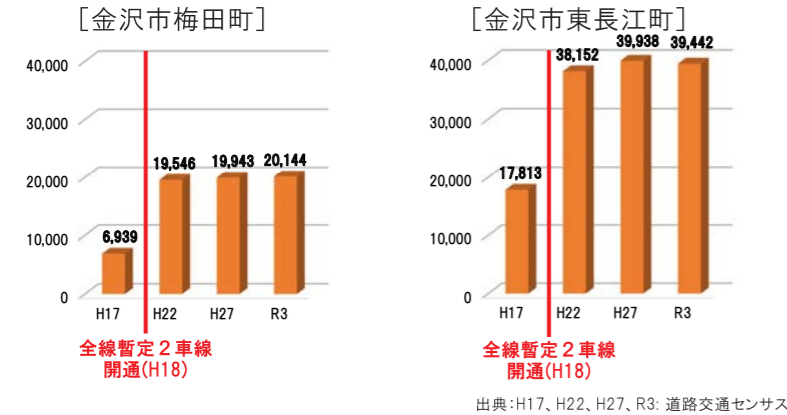


事業実施状況

金沢外環状道路(山側幹線)の全線開通によって、金沢東部環状道路の交通量は大きく増加し、朝夕の交通渋滞が慢性化しています。そのため国土交通省では、順次4車線化整備を進めており、現在、梅田町～月浦町間の4車線開通に向けて事業を行っています。

金沢東部環状道路の交通量の推移



渋滞発生状況



金沢市月浦町より今町方面を望む



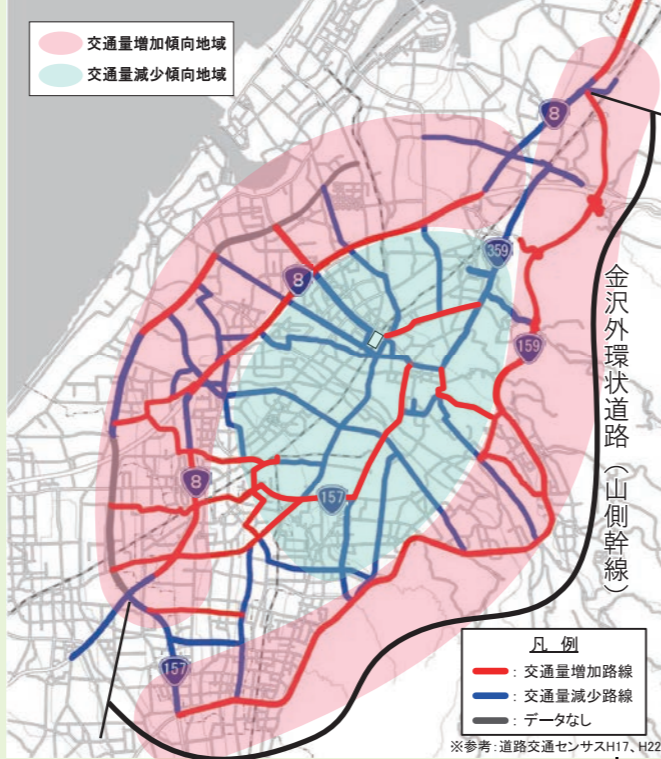
TOPICS 道路空間の再配分により自転車を安全・快適に利用できるまちへ

金沢外環状道路(山側幹線)の全線開通により、金沢市中心部の通過交通が金沢外環状道路へ転換し、市中心部の慢性的な交通渋滞が緩和されました。

市中心部では交通量が減少したことで、車道部分にバスレーンの設置や自転車走行指導帯の整備など、道路空間の再配分が実施され、公共交通機関の利便性向上や、歩行者・自転車の安全性・快適性の確保につながっています。



山側幹線全線開通前後の金沢市内の交通量増減



お問い合わせ

金沢河川国道事務所 〒920-8648 金沢市西念4丁目23番5号

金沢国道維持出張所 〒920-0064 金沢市南新保町103-3

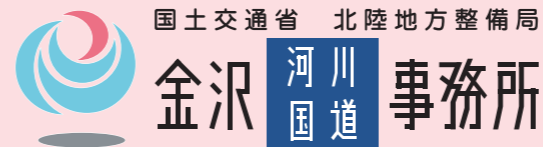
TEL (076) 264-8800 (代)

FAX (076) 233-9631

TEL (076) 238-5071



限られた資源を大切にするために古紙配合率70%再生紙と植物油インキを使用しています。



一般国道159号

金沢東部環状道路



金沢東部環状道路とは

金沢東部環状道路は、金沢市今町を起点とし、金沢市街地東部の丘陵地を通過し、金沢中心部へのアクセスポイントである鈴見交差点(同市鈴見台)を終点とする延長9.4kmの高規格道路です。

同路線は、金沢都市圏を囲む外環状道路(山側環状)の一部として機能し、金沢中心部を通過する交通を迂回させることで、渋滞緩和に大きく寄与します。

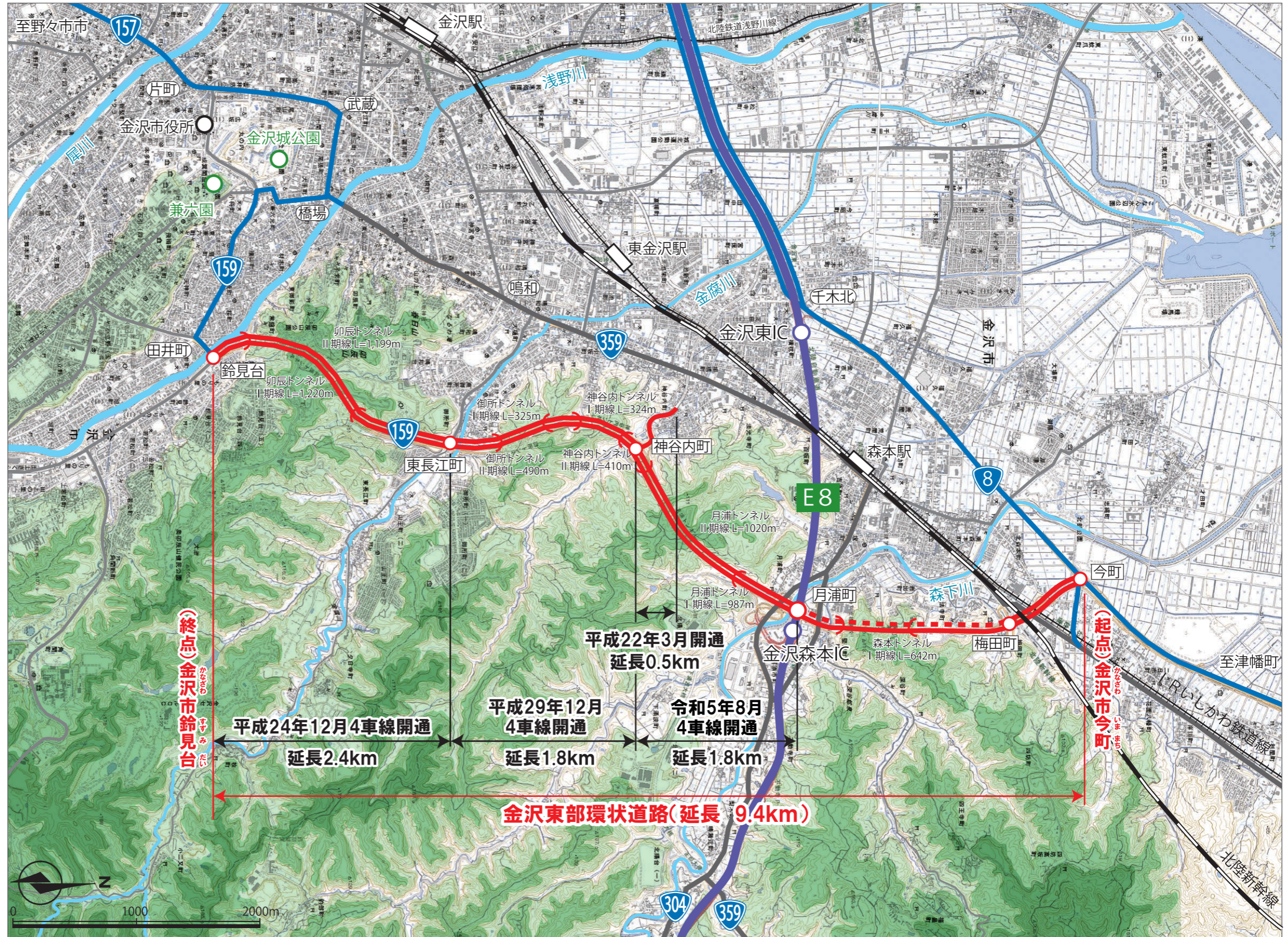
また、石川県の「ダブルラダー輝きの美知(みち)」構想に位置付けられており、県内の広域的なネットワークの充実に寄与します。

事業の概要

- 路線名 一般国道159号 金沢東部環状道路
- 起点・終点 金沢市今町～鈴見台
- 延長 9.4km
- 構造・規格 第3種第1級
設計速度/80km/h
車線数 /4車線(暫定開通時2車線)
標準幅員/24.5m

事業の経緯

- 計画調査 昭和57年度～昭和59年度
- 実施調査 昭和60年度～昭和61年度
- 都市計画決定 昭和60年7月30日(都)今町・鈴見線
- 事業化 昭和62年度
- 用地着手 昭和63年度
- 景観モデル事業の指定 平成2年7月20日
- 工事着手 平成3年度
- 地域高規格道路整備区間の指定 平成7年4月28日(金沢外環状道路)
- 北陸自動車道との連結承認(金沢森本IC) 平成8年12月27日
- 全線暫定開通 平成18年4月15日
(金沢市今町～鈴見台 延長9.4km)
- 鈴見交差点立体化 平成21年12月12日
(金沢市鈴見台 延長0.7km)
- 神谷内IC開通 平成22年3月27日
(金沢市神谷内町 延長0.5km)
- 完成4車線開通 平成24年12月19日
(金沢市東長江町～鈴見台 延長2.4km)
- 完成4車線開通 平成29年12月9日
(金沢市神谷内町～東長江町 延長1.8km)
- 広域道路ネットワーク路線の高規格道路に設定 令和3年3月
- 完成4車線開通 令和5年8月11日
(金沢市月浦町～神谷内町 延長1.8km)



測量法に基づく国土地理院長承認(複製) R 5JHF84
本製品を複製する場合は、国土地理院の長の承認を得なければならない。

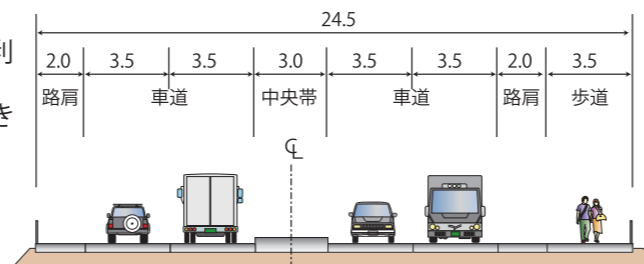
金沢東部環状道路の特徴

金沢東部環状道路と他の道路の交差は、道路横断ボックスや橋梁を設置することにより完全立体交差となっており、主要な道路との連絡はインターチェンジのみで乗り降りできる出入制限(アクセスコントロール)された道路です。

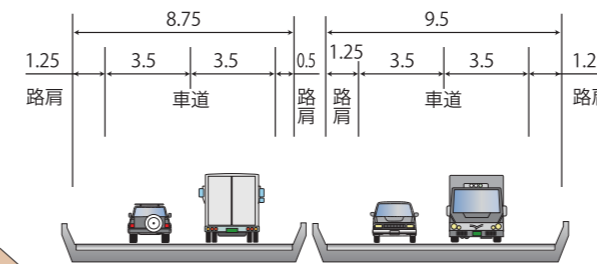
本線を横断する自転車・歩行者・農耕車などの地域内の交通は、道路横断ボックスを利用することにより安全に通行することができます。

なお、暫定2車線開通区間(金沢市梅田町～月浦町間 延長2.1km)についても、引き続き4車線化を予定しており、現在、整備を進めております。

【標準断面図(盛土部)】



【標準断面図(長大橋)】



【標準断面図(トンネル部)】

